

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



平成27年証券アナリスト第1次試験（秋試験）

解答速報！

2015/10/16 現在

【経済】

第1問（22点）

- I 問1 C 問2 B 問3 C 問4 D 問5 B 問6 D 問7 A
問8 C 問9 A
- II 問1 A 問2 D 問3 C
- III 問1 E 問2 E

第2問（35点）

- I 問1 A 問2 A 問3 B 問4 D 問5 D 問6 C 問7 D
問8 B 問9 C 問10 C 問11 A
- II 問1 C 問2 B 問3 A
- III 問1 D 問2 A 問3 C
- IV 問1 D 問2 A 問3 C

第3問（15点）

- 問1 C 問2 B 問3 B 問4 C 問5 C 問6 A 問7 D
- 問8 A 問9 D 問10 D

第4問（18点）

- I 問1 B 問2 B 問3 D 問4 D
- II 問1 C 問2 B 問3 D
- III 問1 A 問2 A 問3 C

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2015 証券アナリスト 1 次試験（秋）

「経済」

今回の試験のほとんどの出題内容は、従来の試験内容をそのまま受け継いだものであり、また、出題レベルも標準的なものでした。ただし、（公社）日本証券アナリスト協会の通信テキスト第 7 回配本『マクロダイナミックス』の執筆者が交代しその内容が刷新されたため、今回の試験では、このテキストの範囲から「長期均衡」や「貨幣とインフレーション」や「経済成長」に関連した問題が、第 2 問の全 20 問中 6 問も出題されており、この点に何か違和感を受けた受験者もいたかと思われます。しかし、試験問題全体としては、過去のアナリスト試験でも出題されている基本問題が多く含まれており、日頃、基本理論の理解を重視している方々は、これら基本問題から確実に得点し、合格の扉を開けることが十分に可能であったと思われます。

問題の構成を見えますと、過去の本試験と同じように、大問 4 問で構成されています。小問の問題数は、第 1 問が 14 問、第 2 問が 20 問、第 3 問が 10 問、第 4 問が 10 問と、全部で 54 問あり、今年の春試験と同じ問題数でした。また、満点 90 点のうち各大問の配点は、第 1 問が 22 点、第 2 問が 35 点、第 3 問が 15 点、第 4 問が 18 点と、これも今年の春試験と同じ配点でした。

大問別に今回の試験の概要を見てみると、第 1 問（ミクロ経済学）では、消費者行動（選好関係、代替効果と所得効果など）、完全競争市場（需要曲線と供給曲線、余剰分析、価格弾力性など）、不完全競争市場（独占と寡占など）、市場の失敗（公共財、外部効果など）、状態価格、ゲームの理論、情報の経済学から出題されています。なお、計算問題の内容は、今年の春試験とほぼ同じものとなっています。

第 2 問（マクロ経済学全般）では、国民経済計算、日本の経済統計、財市場と乗数効果、IS-LM 分析、AD-AS 分析、ライフサイクル仮説、フィッシャー方程式、フィリップス曲線、貨幣とインフレーション、成長会計など、過去の出題内容と同じような問題が多くを占めています。なお、最初に触れましたように、アナリスト協会の通信テキスト第 7 回の内容が刷新されたため、長期均衡や貨幣数量説や経済成長など、最近出題されていなかった内容も含まれていました。

第 3 問（金融経済）では、日本の金融組織、金融市場と金融機関、貨幣需要、日本銀行と金融政策、財政制度と国債の制度、財政の機能、公債発行の問題点など、これまでも出題されている知識の問題が中心となっています。

第 4 問（国際金融）では、先物為替レート・購買力平価・実質為替レートの計算問題、外国為替市場への介入、日本の国際収支（2014 年 1 月に改訂された国際収支統計にもとづいています。）、国際収支表と国民経済計算、財政金融政策と為替レート、といった、過去の出題内容と同じような問題が中心となっています。

以上